

## 訳者後記

本書は、Daniel Guérin, *Ni Dieu ni Maître, Anthologie de l'anarchisme I~IV*, Maspero, 1970 の全訳である。原著は四巻本であるが、本訳書では、第I巻に原著のI・II巻を、第II巻に原著のIII・IV巻を収録した。翻訳にあたったのは、第I巻が長谷川進、第II巻が江口幹である。

編者ゲランの序文にも見られるように、このアンソロジイは、一九六六年にでたデルフ社版を改訂したものである。デルフ社版は、浩瀚な一巻本で、おそらく少数のものであり、見方によっては好事家のための書物、といった観がないでもなかったが、この翻訳の底本となったマスベロ版は、量的に簡略化されるとともに、編集も実践に役立つようずっと意図的なものになり、ポケットブックとして大量に出版されている。そこに、六〇年代半ばには、まだまだごく少数の人間の関心の的でしかなかったアナキズムが、六〇年代後半以降、大衆的な関心を集めるにいたったという、状況の変化が明らかに反映されている。その変化がどうして起きたのか、アナキズムはどこでどういう問題に直面しているのか、その点について、読者の参考までに簡潔に触れておこう。

デルフ社版刊行のあとで、編者ゲランは、アナキズムのアクチュアリテは何に由来するか、というインタビューに、次のように答えている。

第一に、不正をただすことが求められているからである。豊かであり、独創的でもある思想が、忘却の中に捨てさられることはあるまい。忘却から引き出すことが望まれている。

第二に、アナキズムは社会再建の原理としてつねに生きていることに、人々が気づいたからである。確かに今日、世界においてアナキズムはもはや多くのスポーツスマンを持ってはいないが、その思想はその

信奉者以上に生きのびている。

要するにアナキズムは次の二つの面において依然として現実的である。

何よりもまず、すでに一世紀を経ているが、アナキズムは、権威主義的な独裁的な社会主義、全能の国家に立脚し、歴史的発展についての認識を独占しようとする、少数者によって指導された社会主義に起こりうる害悪を、真の予言者としての才能をもって認め、摘発した。

更にその種の社会主義に対して、アナキズムは、私が絶対自由主義的と呼ぶ別の社会主義を対置した。それは全く逆の考えに立脚し、上から下へではなく下から上へと推進されるものであり、個人の創造的な発展と広汎な大衆の自発的な参加とに依拠している。

今日、第一のタイプの社会主義の重大な支障は、それを教義としている国々においてすら感じられていゝる。生産面においては、それがあまり有利でないことに、人々は気づいている。その行きすぎを是正するため、ユーゴスラヴィアにおけるように、アナキスト思想家の再検討が行なわれている。

このゲランの指摘は、いかにも適切である。確かに、アナキズムへの関心の復活の背景には、何よりも労働者階級の祖国、労働者階級の党、という神話の崩壊がある。一方ではいわゆる社会主義国の実態、大衆が解放されているどころか、かえって巧妙な搾取と支配の下におかれていゝる事実が徐々に暴露され、一方では、各国の共産主義運動が、大国主義の犠牲になつていゝるとともに、次第に議会主義化して体制内改良主義と化してゆく事実、あるいは、独善的・官僚的な体質の下に大衆の自発的な運動と敵対している事実が明らかにされてゆくにつれて、もっと別な、大衆の解放を真に達成しうる思想がどこかに探され求められ、その結果アナキズムに照明が当てられ始めた、というの否めない事実である。

そこに、疑いなくアナキズムへの関心復活の大きな要因がある。しかし、それだけではなからう、という感じが私にはある。もっと現代の危機そのものに密着した要因があるのではないか、というのが私の印象である。

現代が終末的な危機に直面していることは、私が改めて指摘するまでもあるまい。その危機の実態をこく

ごく要約していえば、二つの機械——機械制生産と組織的管理の発展を軸にして、ブルジョアジーが収奪体系をほぼ完成したために、そこで人間の豊かな生存が、精神的にも肉体的にもおびやかされ始めている、ということであろう。そういう状況に対し、いわば人間の生命の叛逆が広く試みられつつあるのが現況であるが、その叛逆にはアナキズムの思想的特徴と相呼応する性格が少なくない、という事実が、アナキズムへの関心復活の、漠然たる風潮の背景にある、と私は感ずる。

その相呼応するというアナキズムの思想的特徴は、次の四点と見ていいのではないか。

①現在の破局の有力な一因は、画一化の下での人間性の死であるが、アナキズムは、個人の自由、すなわち個人の自発性とその生の拡充の擁護者であり、それを圧殺するものへの徹底した敵対者であった。

②現在の破局の有力な一因は、決定権の過度の集中、それによる大衆のロボット化にあるが、アナキズムは、中央集権の根底的な批判者であった。

③現在の破局の有力な一因は、大量生産・大量消費のシステムであるが、アナキズムは、近代産業組織の非人間的性格の絶えざる告発者であった。

④現在の破局の有力な一因は、物質的安楽の過度の重視にあるが、アナキズムは、物質的な豊かさよりももっと根本的な生の充足、精神的な気高さをつねに尊重しつづけてきた。

こうした思想的特徴を考え、現在の破局の様相を想い合せてみると、アナキズムへの関心がふたたび高まってきたのも当然であろう、と私は感ずる。しかし、そこで、アナキズムは果して寄せられた期待に応えているのであろうか。私の解答は明らかに否である。なぜかといえば、アナキズムの志向が現代の危機から人間が脱出するための有力な示唆を秘めているにもかかわらず、アナキズムは過去の遺産を食いつぶしている状況から抜けだしてないからであり、現代社会の分析に立脚し、そこからどのような社会を目指し、どのような方法で変革を達成するか、現在を基盤にしたアナキズムや、そうした思想を反映した運動自体も、少なくとも十分には、まだ形成されていないからである。

では、なぜそうした思想や運動が形成されていないのか。そこには、現代社会が容易にはとらえがたい、という難しさもあるが、アナキズムに固有の弱点もいくつかあげられよう。

第一に、アナキズムが、漸く改めて陽の目を見始めた思想だ、という事情がある。現実には即した形での思想が形成されるにはまだ時間が不足しているし、そうした思想的営為にたずさわっている人も、まだまだあまりにも少数だ、という事情がある。

第二に、既存のアナキズム運動の体質的な古さがある。数年前まで、アナキズムは滑稽な存在であった。中傷を浴びるが無視されていた。そうした状況の中で存在していた運動は、ともかくも身を守ることに終始し、現実との交流の中で新しい生命を培ってゆく営みに欠け、過去のアナキズム思想の片言隻句を教条的に繰り返す、自慰のうちに埋没していた。

第三に、アナキズムはあまりにも少数反対派の立場に慣れていた、という事情がある。アナキズムの歴史を見れば明らかのように、アナキズムは、新しい社会建設の思想を決して欠いてはいるわけではないが、これまであまりにも単なる現状批判の立場に慣れすぎてきたために、社会変革のために有効な慣行を提起し育ててゆく、経験や柔軟な思考を欠いており、その発言は観念的なものに墮しがちであった。

第四に、最近になって、アナキズム運動の中に多数の若者たちが参加し、そこに新しい芽が見られるようになったことは事実であるが、その若者たちが、必ずしも新しいアナキズム形成の役割を果たしていない、アナキズムの本質とは背馳する性格を帯びていることが少なくない、という事情がある。現代社会の一つの特質は、技術と組織によって過度に人間が保護されている、という事実である。そこから、我儘が無制限に享受されなければ肯立つ、という甘ったれた坊やのような人間が生まれてきているが、無制限の好き勝手に許容する思想がアナキズムだ、と解して、その種の人間がアナキズム運動に接近してきている事実もかなりある。その種の人間の特徴は、社会的責任感と他人の意志尊重の念を欠いていることであるが、上からの圧制を拒否するアナキズムの本質は自律的秩序の形成にあり、自律は、自己を客観化できる能力と社会的責任感と他人の意志尊重の上に成立するものであり、それは人生や社会の機微に通ずる個人の成熟を基盤とする。しかし、甘ったれた坊や風の人間たちは、そうした成熟からはあまりにも遠い位置にある。彼らの行動は幼稚な自己満足、一種の気晴しに終らざるをえず、そこから現実打開の、有効な思想や運動が生まれる筈はないのである。

こう見てくると、アナキズムの現状は、それへの期待にもかかわらず、かなり悲観的なものである。しかし、すでにのべたように、アナキズム的な志向が現代の危機から人間を脱出させるための、有力な示唆を秘めていることもまた事実である。その示唆を実らせ、アナキズムに現に寄せられている期待に応えるためには何をなすべきなのか。いうまでもなく、単に遺産を食いつぶしている状況を脱して、現実に即応したアナキズムを形成すべきだ、ということになる。

その形成の方法は二つに尽きる。

第一には、現実における課題に飽くまでも執着することである。

第二には、絶えず古典に帰ってみることである。

アナキズムには大別すれば三つの側面がある、と私は理解している。資本主義的ないし権威主義的社会的批判(自由の追求、権威と所有の批判、国家と政府の批判)、人間の新しい結合の仕方の提示(自由な発意と合意による人間の提携としての連合、その管理形態としての自治管理、その組織としてのコミュニティ)、新社会に到達する方法にかかわる、権威主義的社会的主義の批判(前衛党、プロレタリアート独裁、官僚主義の批判)の三つであるが、それらを主軸とする過去の遺産の中には、たやすく汲み尽くしえない貴重な示唆が含まれている、といっても過言ではない。

この訳書刊行に意味があるとすれば、その示唆に比較的容易に近づきうることであり、と訳者としては感じているのである。というのも、アナキズムにおいては、過去の遺産すら、まだ十分に陽の目を見てはいないのだから。

編者であるダニエル・ゲランについては、すでに、『現代のアナキズム』、『現代アナキズムの論理』(以上三一新書)、『人民戦線』(現代思潮社)、『エロスの革命』(太平出版社)、『褐色のベスト』(河出書房新社)の邦訳があり、十分知られていることと考えられるので、ここでは繰り返さない。

訳語について簡単に触れておきたい。

ある国語で書かれたものを別の国語にそのまま移すことは不可能である。翻訳は、原著についての訳者の解釈を示す、という以上のものではない。つねに訳者の個性を帯びざるをえないのである。したがってこのアンソロジーにおいては、第一巻と第二巻の訳者間で、若干の訳語について意見の相違がみられたが、訳者それぞれの主張ないし好みを尊重して、無理に統一することを避けた。

重要な訳語については、association を、長谷川は、結社、組合、生産組合、団体と訳しわけ、江口は、提携組織と訳した。libertaire を、長谷川は、リベルテールの、あるいは絶対自由主義的とし、江口は、絶対自由主義的とした。socialisme libertaire, communisme libertaire を、長谷川は、リベルテールの社会主義あるいは共産主義とし、江口は、自由社会主義、自由共産主義とした。autogestion を、長谷川は、自主管理とし、江口は、自治管理とした。

この翻訳の完成に当っては、国の内外を問わず、多数の仲間たちの協力をえた。一々名をあげることにはできないが、厚く謝意を表しておきたい。

また、私事にわたって恐縮であるが、この訳書刊行の企画者であり編集担当者であった河出書房新社の上間常通氏は、刊行を前にして故郷沖繩に帰って新生活に入られた。この場をかりて、心からの声援を送りたいと思う。なお、上間氏のあとを引受けて、このアンソロジー刊行の労に当られたのは竹内正年、中間洋一郎の両氏である。明記して謝意にかえたい。

一九七三年六月

江口 幹

Daniel Guérin

NI DIEU NI MAÎTRE

ANTHOLOGIE DE L'ANARCHISME II

© François Maspero éditeur, 1970

This book is published in Japan by arrangement through the Bureau des Copyright Français, Tokyo

ダニエル・ゲラン編

神もなく主人もなく アナキズム・アンソロジーII ©1973

定価 1600円

1973年7月20日 初版印刷

1973年7月25日 初版発行

訳者 江口 幹

発行 株式会社 河出書房新社/中島隆之

東京都千代田区神田小川町3-6 電話(東京)292-3711 振替東京10802

印刷・製本 中央精版印刷株式会社

1030-057308-0961

落丁・乱丁本はお取替します

人名索引

[ア]			
アインシュタイン, K.	II 270	ウーティン, N.	I 123, 125~6, 129, 203
アスカートン, F.	II 244~9, 264, 269~70	ウランゲリ	II 136
アユード, M.	II 269~70	ウルリッチ	II 222, 230
アモン, A.	II 22, 26, 29	エカテリーナ2世	I 280
アルシーノフ, P.	II 116~7, 135~6, 148	エスカルティン, T.	II 244~5, 269
アルスバーグ, H.	I 310	エックリウス, J-G.	I 132, 204
アルヒーボフ	II 195, 208	エドワード, G.	I 33
アルフォンソ13世	II 222, 246~7, 270	エベール	I 291, II 70
アルマン, E.	I 17	エマヌエレ2世	II 9
アレヴィ, E.	I 209, 225	エンゲルス	I 15, 19, 38, 130, 190~1, 205
アレクサンドル3世	I 293	オーウェン, R.	I 113, 118, 302
アンドリュウ	I 128	オガリョフ	I 122, 126~7, 203
アンリ, E.	II 51	オスマン	I 94, 118
イブセン	II 36, 49	オソソフ	II 195, 208
イリール	II 195	オードリ, C.	I 60
ヴァイヤン, A.	I 10, II 85	オブトマン, P.	I 39
ヴァイヤン, E.	II 66, 84	オリヴィエ, E.	I 103
ヴァルク	II 195, 208	オリベール, G.	II 245~6, 248~9, 269, 287
ヴァルラン, E.	I 125, 194, 196, 203	オレシン	II 208
ヴァンゼッティ	II 247, 267	[カ]	
ヴィガント, O.	I 33	カヴェニャク	I 57~9, 117
ヴィシエル	I 228	カンヤン, M.	II 282, 291
ヴィダル	I 61	カンーリン	II 189
ヴィルガルデル	I 61	カバノフ	II 195
ヴィルキンス	I 305	カバリエロ, L.	II 250, 269~70, 275, 277~8, 286~7, 291
ヴィルケン	II 217, 219	カフィエロ, C.	I 133, 204, 253, 259, 263, 270, II 9
ヴェーユ, S.	II 250, 270	カベ	I 75, 113, 117
ヴェルシーニン	II 195, 208	ガボン	II 115
ヴェレテルニコフ, B.	II 163	カミンスキ	I 140, 204
ヴォーリン (エイヘンバウム)	I 312~3, 315, II 115~9, 129, 131, 133~4, 166, 173, 219, 222~4, 226~7, 230, 279	カーメネフ	I 311, II 164, 185
ヴォルテール	I 228	カリニン	II 179~80, 182
ウォロシエロフ	II 164	ガリバルディ	I 122, 203, II 48
		ガリフェ	II 188

ガルシア, S.	II 246	コモレーラ	II 92, 113
カルノー	II 73, 85	コラン	I 209, 225
カルベンコ	II 148~9	ゴーリキー	II 179, 186
カンパネラ	I 113, 118	コル, H. V.	II 25, 49
ガンベッタ	I 128, 194	コルチャック	I 300, 314, II 194, 206, 219, 227
カーンボ, F.	II 240	ゴールドマン, E.	I 306, 314, II 35, 39~40, 42~3, 49~50, 174~5, 217, 222~3, 249, 255, 286
ギウー	I 42	コルニーロフ	II 215
ギゾー	I 55, 78	コルネリセン, C.	II 39, 50
ギヨーム, J.	I 121, 140, 167, 191, 204~7, 219, 227~32, 249, 252, 265, 278	ゴレイ, E.	I 230
キルガスト	II 195, 208	コロントイン, A.	II 218
クズミン	II 179~80, 196	コント, A.	I 63
クネレル, M.	II 225, 231	コンパニス	II 249, 270
クポーロフ	II 195, 208	[サ]	
グラヴ, J.	II 24, 48, 53, 69	ザゴルスキ	II 137
グラッドストーン	II 56	サーシャ →ベルクマン	
グラナツハ, A.	II 248	サッコ	II 247
クリアブニコフ	II 218	ザトゥスキ	II 148~9
グリフェール, V.	II 75~6, 85	サブリン	II 139
クリュセレー	I 128	サムソン, I. I.	II 39, 50
クルワゼ, H.	II 33, 36, 49	サルモン, A.	II 59
グレゴリー 7 世	I 182	サン=シモン	I 77~8, 80, 117, 302
グレッポ	I 75	サン=ジュスト	I 228
クレマンソオ	II 56, 85, 269	サンズ, R.	II 246, 270
クロボトキン, A.	I 308, 310	サンティリヤン, D. A.	I 279, II 110, 113, 114
クロボトキン, P.	I 16, 204, 206~7, 251~3, 259~60, 276, 278~9, 305~314, II 48	シヴィルスキ	II 139
ゲーテ	I 36, 228	シェイクスピア	I 228
ゲード, J.	II 25, 47, 50, 54, 84	シエース	I 78
ケトレ	I 153, 205	ジェルジンスキー	II 221, 230
ケヒリイ	I 228	ジノヴィエフ	II 178, 181~4, 197, 207~8, 222, 235
ケラー, G.	I 228	ジベルロヴィッチ	II 178
ゲルツェン	I 122~3, 126, 203	シムールダン	I 295, 314
ケレンスキー	I 253, II 138, 182~3, 222~3	シモナン, C.	I 40
コシュエシコ	I 294, 314	シモン, J.	I 103, 118
コースチン	II 162	シャイデマン	II 47, 50
コストロミチノフ	II 194	ジャックリー	I 292
コズロフスキー	II 182~80, 193~4, 198		
コタン, E.	II 244, 250, 269		

シャピロ, A.	I 308~9, 315, II 43, 115	ソクラテス	II 79
シャプリエ, E.	II 39	ソフィ (クロボトキン夫人)	I 306~9
シャリアピン	II 228	ソブレビエーラ, G.	II 245~6, 269
シャルル 5 世	I 182	ゾーリン, L.	II 176~7
ジャン, A.	I 128	ゾーリン	II 175, 178, 217
ジャンベラン, M.	II 85	ソルデビーラ	II 244, 247, 269
ジュアール	I 44	ソローヴィニイ, B.	II 72
ジュヴィッツゲーベル, A.	I 219, 259, 263~4, 313	[夕]	
ジュコフスキー, N.	I 123	ダーウィン	I 18, 229, 251
ジュシニ	I 9	ダート, E.	II 245, 270
シュティルナー, M.	I 13, 15~20, 33~8, II 35, 49	ダリモン, A.	I 91, 118
シュトラウス	I 18	ダントン	I 295
シュネーダー	II 72	チェルケーソフ	II 24, 45, 48
シュミット, J. K.	I 18 (→シュティルナー)	チェルニャーク	II 147
ジョレス, J.	II 24~6, 49	チェールノフ	II 187, 217, 219
ジール	II 288	チェレディヤーク	II 147
シルマノフスキー	II 194	チブリアーニ	II 24, 48
シロムスキー, J.	II 49, 280, 290	デイ, H.	II 248, 270
シロー	II 229~30	ティエリ, A.	I 280
スヴェルドロフ, I. M.	II 136~43, 145, 147~9	ティエール, A.	I 57, 64, 109, 117, 121, 174, 198, II 188, 283
スコロバドスキー	II 140, 152	デニキン	I 300, 314, II 131, 152, 158~60, 162, 167, 169, 171, 206, 226~7
スターリン	II 230, 278, 283	デムネック	II 92
スーチャー, A.	II 87	デュクロ, J.	I 12
ステーンズ	I 209	デュノワ, A.	II 29, 35, 38~40, 49
ストチュース	II 155	テラデリヤス	II 104, 110
スパルタクス	I 216	デーンハルト, M.	I 17, 19~20
スピノザ	I 228	ドゥイベンコ	II 152~7, 172
スピリドノーヴァ, M.	II 222, 230	ドヴィリエ	I 9
スミス, A.	I 20	トゥーキン	II 193~4, 208
セイ, J-B.	I 20	トゥハチエフスキー	II 185~6, 218
セギ, S.	II 242, 245, 269~70	ドゥルレーティ	II 233, 243~53, 255~8, 269~70,
セーナ, J.	II 104	ドゥレクリューズ	I 194
セナル	I 65	トナール, G.	II 34
セルジュ, V	I 11, II 22, 48, 222	ドブロリュエボフ	II 162
センティニオン	I 128	ドマンジュ, M.	I 9~10
		トラン, H.	I 92~3

- トルトリエ II 24  
 ドレザル, P. II 22~4, 29, 50, 69, 84  
 トレーニ, U. II 248, 270 (→フェデリ)  
 トレーポフ II 199, 219  
 トロツキー II 118~9, 138, 158, 161~2, 164,  
 173~4, 180~2, 185~6, 199, 201,  
 207~9, 217, 222, 228~30  
 ドロリイ, G. II 25, 49  
 [ナ]  
 ナタフ, A. I 9  
 ナタフ, G. I 9  
 ナハト, S. II 34, 49  
 ナブルツィ, L. I 205  
 ナポレオン I 285, II 242, 261  
 ナポレオン3世 →ボナバルト  
 ニキホローヴァ, M. II 147  
 ニコライ1世 I 251  
 ニコライ2世 II 206  
 ニーチェ I 18  
 ニューヴェンフェイス, D. II 24~5,  
 43, 48, 50  
 ニュートン I 18, 47  
 ネグリニ, J. II 288, 291  
 ネチャーエフ I 126, 131, 204  
 ネットラウ, M. I 140, 204, 251, II 286  
 ネフリュードフ II 215  
 ノスケ II 47, 50  
 [ハ]  
 バイコフ II 195, 208  
 バイロン I 228  
 ハインドマン, H. M. II 25, 47, 49~50  
 バウアー, B. I 18~9, 21  
 バヴロフ I 308~9  
 バヴロフ II 195, 208  
 バギンスキー, M. II 38, 42, 50  
 バクターニン I 12~3, 16, 38, 119, 121~33,  
 140~1, 167, 170, 181, 189~91, 203~  
 5, 207, 230~1, 251, 265, 278, 313,  
 II 9, 24, 36, 48, 63, 72, 84, 112, 218  
 バス, A. II 269  
 バスカル I 47  
 バゼーヌ I 128  
 ハーゼンクレフェル I 133  
 ハーディ, K. II 26, 49  
 ハッセルマン I 133  
 バトルーチエフ II 195, 208  
 バハティエルラ, M. II 245  
 バブーフ I 217, 300  
 バーフ, C. I 125, 203, 207, 209~10, 219, 225  
 ハルケ, P. N. II 96~7  
 バルベ I 58  
 バロン, A. I 310, 312, 315  
 バロン, F. I 312, 315  
 バンディ, J.-L. I 207, 263  
 ビスマルク I 18, 128, 184, 201, 296,  
 II 26, 283  
 ヒッペル I 18~9  
 ヒトラー II 288  
 ファウスト I 36  
 ファーヴル, J. I 103, 108~9, 118  
 ファネリ, G. I 124, 140, 203  
 ファブリ, L. II 10, 46, 50  
 ファブレガス, J. P. II 104, 110, 286  
 ファンフル, R. II 243  
 フィッシャー, K. I 33  
 フィリップ, L. I 44, 55, 292  
 ブーヴ, S. I 39  
 フェ德里, U. II 129, 134  
 ブエナカサ, M. II 244, 269  
 フェランデル II 247, 270  
 フェリ, J. I 92, 118  
 フェルル II 65, 84  
 フェレル, F. II 38, 50  
 ブエンテ, I. II 113  
 フォイエルバッハ I 33, 36  
 フォグレ I 209  
 フォール, S. I 10, II 53, 59, 117, 244,  
 247, 249~50, 286

- ブージュ, E. II 49, 62, 69~76, 85  
 ブハーリン II 137, 172  
 プラトン I 113  
 ブラン, L. I 60~1, 113, 229  
 ブランキ, Ad. I 45, 116  
 ブランキ, Au. I 9, 58, 253, 294, 314  
 フランコ II 222, 230, 270, 280  
 フランダソ, A. I 10  
 ブランドス, G. I 299, 314  
 フーリエ I 229, 279, 302, 314  
 ブリエート, H. M. II 287~8  
 ブリエート, I. II 280, 290  
 ブリスマ, D. I 209  
 フリック, H. C. I 315  
 ブリッソー I 291~2  
 ブリュドモオ, A. II 117, 271  
 ブリル, E. J. I 186  
 ブール, L. I 21  
 ブルース, P. I 252, 313, II 66  
 ブルッパッヘル, F. I 227, 249  
 ブルードソ, C.-F. I 40  
 ブルードソ, P.-J. I 13, 15, 17, 39~41,  
 55~64, 66, 75, 91~3, 101, 113, 121~2, 141,  
 167, 191, 205, 228~9, 278, II 65, 112, 290  
 フールニエール, E. II 23, 48  
 ブルム, L. I 60  
 ブレサンセ, F. II 74  
 ブレハノーフ II 47, 50, 227  
 ブレンナー I 312  
 フロコン I 65  
 フーロン II 72, 84  
 ベイラッツ, J. II 242  
 ヘーゲル I 15, 39  
 ヘス, M. I 33, 35  
 ベスターニャ, A. II 235~7, 242  
 ベトリウーラ II 152, 155~6  
 ベトリチエンコ II 191, 193~5, 208, 214  
 ベーベル, A. II 25, 49  
 ベラスケス, M. R. II 288  
 ベルヴーソソ II 195  
 ベルクマン, A (サーシャ) I 306, 309,  
 312, 314~5, II 43, 174, 178~181,  
 183~5, 187~8, 190, 218, 222, 224  
 ベルタン I 94, 103  
 ヘルツィヒ I 263  
 ベルティエ, F. II 24, 29, 61~3, 75, 84  
 ベルトーニ, L. II 282, 291  
 ベルナル, L. I 225  
 ベルネーリ, C. II 134, 248, 270, 273,  
 278, 283, 290  
 ベルベルキン II 191, 195, 208  
 ベレス-ファラース II 249  
 ボグダーノフ II 139, 195  
 ボッテ, L. I 209, 225  
 ホップス I 38  
 ボディ, M. I 186  
 ボナバルト, L. (ナポレオン3世)  
 I 58~9, 91~2, 106, 109, 113, 167, 314  
 ボナール, L. I 75, 117  
 ボニファティウス8世 I 182  
 ボフリジエック II 35, 40~1  
 ホベール, G. II 246~7, 270  
 ホメロス I 228  
 ボリアコフ I 131  
 ボルクセル II 194  
 ボルジ, A. II 237, 242  
 ボルニン II 162  
 [マ]  
 マクシーモフ, G. P. II 189, 218, 222  
 マクシーモフ, O. II 224~5, 231  
 マッケイ, J. H. I 17~20, 38  
 マツィーニ I 123, 129, 140, 203, II 9  
 マフノー, N. I 310, II 116, 129, 135~7,  
 150, 152~6, 158~66, 169, 226~7, 233, 247  
 マラー I 228, 291, 295  
 マラテスタ, E. II 9~11, 22, 24,  
 29, 36, 40, 43, 48, 53, 62, 134  
 マラート, C. II 45, 50

マリ	I 103, 108~9	ユング, H.	I 132, 204
マルガル, P.	II 278, 290	[ラ]	
マルクス	I 12, 15, 19, 28, 38, 40, 117, 122~3, 125, 129~32, 141, 176, 181 ~3, 186, 189~92, 198, 204~6, 231, 278, II 23~4, 29, 36, 72, 84	ラヴァンショール	II 29, 63
マルクス=エーヴリング夫人	II 26	ラヴィチ	II 178
マルチ, J.	II 240	ラヴィチ夫人	I 308, II 184
マルチネス, M.	II 97	ラヴロフ, P.	I 131, 204, 251
マロン, B.	II 23, 48	ラガルデル, H.	II 75, 85
マン, T.	II 225~7, 231	ラサール	I 186
マンダール	I 291	ラザール, B.	II 23
ミシュル, L.	II 49, 70, 73, 85	ラスパイユ, F. V.	I 58~9, 66, 74
ミシュレ	I 39	ラビンスキ	I 122
ミューザム, E.	II 247~8, 270	ラファルグ	II 84
ミラボー	I 292	ラブレール	I 228
ミルラン, A.	II 25, 49	ラマルティエヌ	I 60, 117
ムッソリーニ	II 10	ラムス, P.	II 36, 40~1, 49
ムーロン, C.	I 229	ラング	I 17
メェラウク	II 164	ランサム, A.	I 310
メッツ, I.	II 173, 219	ランダウアー	II 270
メッテルニヒ	I 121	リチャーズ, V.	II 105
メトロン, J.	II 29, 59, 84	リーブクネヒト, K.	II 49
メーリング, F.	I 191, 205	リーブクネヒト, W.	I 125, 127~8, 203, II 26
モア	I 113, 118	リベラ, P.	II 230, 246, 270
モオラン, J.	I 13, II 221, 230	リュベル, M.	I 192
モクルソフ	II 147	リュリック	II 225, 231
モナット, P.	II 29, 62, 76, 85, 234	ルアネ, G.	II 24, 48
モリエール	I 9, 228	ルイ14世	I 280
モルナル, M.	I 204, 209, 225	ルイ15世	I 280
モレリ	I 76	ルイ16世	II 56
モンツェーニ, F.	II 113, 273, 278, 285, 290	ルヴァル, G.	II 100, 114, 221, 223~4, 231, 290
モンテスキュー	I 200	ルーヴェ, L.	I 9
[ヤ]		ルクセンブルク, R.	II 84, 150
ヤコヴェンコ	II 208	ルクリュ, E.	I 204, 262, 275, 313, II 24, 48, 50, 53~4
ヤルチューク	I 310, II 173	ルクリュ, P.	II 45, 50
ユグ, C.	II 65, 84	ルクワン, L.	II 244, 247, 269~70
ユゴー, V.	I 295	ルーゲ, A.	I 19
ユードニッチ	II 206, 215, 219	ルソー, J-J.	I 67, 77~8, 83~4, 113, 117

ルター	I 77	ロイカリ	II 198
ルドリュ=ロラン	I 58, 74	ロシュフォール	II 70, 84
ルナチャルスキー	II 222, 228, 230	ロスチャイルド	II 16, 72
ルーネフ	II 147	ロゾフスキー	II 235, 242
ルルー, P.	I 61, 117	ロッカー, R.	II 43, 50, 247, 286
レインダース, G.	II 39	ロベスピエール	I 78, 228~9, 291, 295
レゲレール, F. G.	II 245	ロマネンコ	II 195, 208
レーニン	I 12, 16, 308, 310, II 22, 50, 62, 136, 138, 141~9, 164, 173, 180~2, 188~ 90, 208~10, 218, 221~2, 225~8, 278	ロマノ, A.	I 140, 204
レーニング, A.	I 13, 140, 191~2, 206	[ワ]	
		ワシリエフ	II 179~80

## 事項索引

【ア】  
 愛国心 I 143  
 アソシアション(結社, 組合, 生産組合, 団体, 提携組織) I 25~30, 33, 35~6, 59, 114, 135, 154, 156~7, 179~80, 183, 196~8, 235~6, II 67~9, 79~80, 87~8  
 アナーキー I 45, 51~2, 55~6, 78~9, 141, 178, 270~1, 276, 297, II 13~21, 53~8  
 アナキスト・インターナショナル II 9~10, 22, 43  
 アナキスト弾圧 I 309~13, II 116~7, 120~1, 136, 141, 148~9, 189, 221~30  
 アナキストと統一戦線 II 28, 129~30, 273~90  
 アナキズムへの中傷 I 11~3  
 アナキズム的軍事組織 II 153, 167~70, 251~69  
 アナキズム的社会組織 I 159~60, 179~80, 207~8, 232~49  
 アナキズム的政治組織 I 151~2, 155~7  
 アフランシ(自由人たち) I 18~20  
 インターナショナル(第1) I 123~7, 129~33, 181~5, 191~2, 209, 229~31, 252, 256, 261~2, II 9, 61, 234  
 —総務委員会宣言 I 189~92, 278  
 インターナショナル(第2) I 305  
 インターナショナル(第3) I 305, II 234~8  
 インターナショナル(赤色労働組合) II 114, 220, 235, 238  
 A I T II 283~5  
 F A I II 88, 100, 241~2, 249, 263~65, 275, 277, 287  
 【カ】  
 革命 I 32, 55, 59~60, 76, 115~6, 145~6, 148~50, 166~7, 176~81, 189, 196, 232, 234~8, 265~9, 279, 286~96, II 11~2, 84, 233~4  
 家族 I 165, 243~6  
 学校 I 165~6  
 過渡期 II 131~2  
 神 I 123, 139, 150, 161, 171~6  
 神もなく主人もなく I 9~10  
 教育 I 243~6  
 教育と自由 I 21~4  
 教会 → 神  
 共産主義 I 259, 262~4, 270~5, 298  
 共産主義(—者)批判 I 113~6, 134~6, 265~9  
 『共産党宣言』 I 189~92  
 協同組合 I 201~2  
 共同体 I 49, 54, II 87~113, 233  
 『クロンシュタット・イズヴェスチャ』 II 173, 192~214  
 『警鐘』(『ナバート』) I 315, II 116  
 契約 I 77~9, 81, 84, 91  
 権威 I 75, 88~9  
 国家 I 25~9, 70~3, 75, 113~4, 137~9, 141~2, 157~9, 174~5, 183, 186~9, 190~2, 197~200, 212~21, 266~7, 277~8, 280~1, II 121, 124~8  
 アン・アルジー国家 I 214~6  
 人民国家 I 183, 186~9, 190  
 労働者国家 I 217, 219~24, II 124~8  
 国際アナキスト大会 II 29~42  
 国際社会主義的民主主義同盟 I 123~4, 129~32, 176  
 国際同胞団 I 122, 140~50  
 個人主義者 I 30~7, II 33~42  
 コミュニオン I 142, 147~50, 152, 154~8, 168~70, 179~80, 194~200, 207~8,

213~4, 217~25, 237~49, 254~8, 263~5, 268~9, 278~86, II 90~2, 94, 99, 102, 132~3, 150~2  
 【サ】  
 C N T II 88, 90~2, 96, 99~100, 104, 113, 221, 230, 234, 239, 242~5, 248~54, 259, 261, 263~5, 268~72, 274~8, 281~90  
 自主(治)管理 I 66, 201~2, II 87~113, 150~2, 233  
 自発性 I 115  
 『資本論』 I 125, 131  
 社会主義 I 56~8, 67~74, II 212~4  
 革命的社會主義 I 127, 135~6, 192  
 権威主義的社會主義 I 266  
 自由と社会 I 26~9, 49~52, 137  
 社会民主主義者とアナキストの離反 II 22~9  
 自由 I 134~5, 137~8, 142, 144~53, 276, II 166  
 集産主義 I 259, 261~4, 269, II 9  
 ジュラ連合 I 130~3, 259~75  
 将来社会の公益事業の組織 I 210~25  
 所有 I 46~9, 52~5, 203, 222, II 76  
 『新時代』 I 253, II 61, 64  
 政府 I 75~84, 87~8, 90, 276, 286~90, 293~6, II 13~21, 274~5  
 選挙 I 56, 58, 63~6, 86~7, 91~112, 288~9, II 17, 78, II 43~6, 233  
 戦争 I 160  
 相統権 II 12~3, 29~42, 123~4  
 組織 I 130  
 ソンヴィリエ回章 I 130  
 【タ】  
 代議制度 → 選挙  
 テロル I 176, II 51~3  
 統治 I 75~81, 90  
 党派 I 29~32  
 トロツキー批判 II 118~9, 158~62, 204~6  
 【ナ】  
 ナバート連盟 II 129~33  
 二月革命 I 60~1, 119~21  
 【ハ】  
 『バクレーンツ・アルシージュ』 I 140, 186, 191  
 バリ・コムニオン I 129, 170~1, 189~201, 283, 305  
 叛逆 I 32, 138, II 42  
 『叛逆者』 I 253, II 9  
 反ファシズム II 239~42  
 評議会社会主義(—者) II 105~6  
 平等 I 135, 159, 270, 277  
 武装した人民 I 198, II 196  
 『フリーダム』 I 253  
 プロレタリア独裁(革命的独裁, 人民の独裁, 労働の独裁, 集团的独裁) I 114~5, 188, 196, 220, 290~5, II 46~7, 121~4, 131~3, 175, 202~4, 214~7, 231~3  
 平和・自由同盟 I 122~4, 167, 229  
 『ベナールじいさん』 II 70~4  
 法律 I 82~4, II 17  
 ポリジェヴィキ(—ズム)批判 I 300~7, II 119~28, 139~49, 153~8, 163~5, 171, 175, 217  
 【マ】  
 マフノー派反乱軍 II 152~71  
 マルクス批判 I 181~9  
 【ヤ】  
 『ユマニタ・ノーヴァ』 II 10  
 【ラ】  
 連合 I 155, 157~9, 167~70, 221~5, 246~9  
 労働 I 161~4  
 労働運動とアナキスト II 30~4, 40, 61~75  
 労働組合 II 67~9, 76~84, 205~6  
 労働者評議会 I 303~5  
 『労働の声』 II 115, 118, 189  
 ロマンド連合 I 124, 126, 129

□激動の現代がはらむ課題を多様な視角からラディカルに追究する叢書□

## 脱工業化の社会

アラント・トッレーヌ  
寿里 茂/西川 潤訳 ¥850●  
高度産業社会に生起するテクノクラシー支配など新たな社会問題を社会変革の主体の立場より刷出し併せて社会学の動的再生を提唱する注目の行動の社会学

## カール・マルクス

エルネスト・マンデル  
山内 親/表 三郎訳 ¥880●  
『経済学批判要綱』を視座に若き時代から円熟期に至るマルクスの統一像を構築し、マルクス思想の現代的革命性を鮮やかに明決しつつ世界史的課題に迫る

## 革命的ヒューマニズムの展望

レオ・コフラー  
片岡啓治訳 ¥850●  
初期マルクスの諸著作の分析を基盤に、〈遊ぶ存在〉—人間の歴史的総括を踏まえ、革命的なヒューマニズムの可能性を追求した現代革命論への人間学的考察

## 政治権力と人間の自由

フランツ・ノイマン  
内山秀夫/三辺博之他訳 ¥1200●  
ファシズムとの闘いに生涯を賭けた『ビヒモス』のノイマンが、政治権力の歴史・社会的本質と人間の自由の可能性を知性の極北に抉る。マルクラーゼ編序文

## ヴァルター・ベンヤミン

テオドール・W・アドルノ  
大久保健治訳 ¥780●  
『否定の弁証法』の著者アドルノが、否定の精神を貫いて生きた稀有の思想家ベンヤミンの歴史意識と思考の壁に分け入り、その全体像を浮き彫りにした好著

## 暗い時代の人々

ハンナ・アレント  
阿部 斉訳 ¥950●  
ローザ、ベンヤミンなど暗い時代に一条の光を放った人々の足跡をたどりつつ人間と社会を根底的に問い直す現代屈指の政治哲学者による期待の人間論

## レーニン主義の起源

リチャード・バイブス  
桂木健次/伊東弘文訳 ¥880●  
帝都ペテルブルグに澎湃として起る労働者運動。躍動する若き革命家群像との交流と対立。19世紀末の革命・労働運動の渦中にレーニン主義誕生の謎を探る

## 褐色のペスト

ファシズム—ダニエル・グラン  
ホルタージュ 橋原弥生訳 ¥880●  
1930年代初頭、ファシズムに染めあげられてゆく民衆、抵抗する市民等の姿を赤裸々に描き、ファシズムの実体を告発した、自転車と足による異色のルポ

## 脱領域の知性

文学・言語—ジョージ・スタイナー  
革命論集—由良君美監訳 ¥800●  
ヨーロッパ価値体系の崩壊に伴い〈言葉と事物の一体化〉を見失った現代に言語および言語文化の本質とその将来を問う、スタイナーによる最新言語論集

## ユダヤ主義の本質

—ユダイカI—ゲルショム・ショールム  
高尾利数訳 ¥850●  
メシア主義をはじめユダヤ教の精髓をキリスト教との対比を通じて浮き彫りにし代表的ユダヤ教学者の教説を紹介しつつユダヤ人の贖罪と終末の意味を解明

□激動の現代がはらむ課題を多様な視角からラディカルに追究する叢書□

●印既刊

## ユダヤ主義と西欧

—ユダイカII—ゲルショム・ショールム  
高尾利数訳 ¥900●  
今世紀を代表するユダヤの知性、アグノン、プーバー等の思想を展開しつつ、現代史に対する〈ユダヤ的なるもの〉の貢献とその特色を明らかにした問題作

## ソヴェト・コミュニケーション

ロバート・ウエッソン  
広河隆一訳 ¥1000●  
アナーキズム思想に造詣の深い著者が、ソヴェトにおける共同体の生成から消滅にいたる歴史を詳細に論じ、スターリン主義の根源を抉りだした注目の好著

## 現代社会科学の方法

テオドール・W・アドルノ/カール・ポパー他  
城塚 登/浜井 修訳  
社会科学の論理をめぐり新実証主義の立場とフランクフルト・マルクス主義の間でなされた大論争の主論文にアドルノの思想的遺稿となった総括論文を附す

## 一次元の人間

—先進産業社会のイデオロギーの研究—ヘルベルト・マルクラーゼ  
生松敬三/三沢謙一訳  
アメリカ社会の分析を基調に、一次元の思考に支配された人間の集団としての現代社会の抑圧的構造を解明。その超克の可能性を示唆したマルクラーゼの著者

## ローザ・ルクセンブルク I・II

ビーター・ネットル  
鎌山/春田/宮島/湯浅/米川訳  
人・理論・時代の統一の再構成によりドイツ革命運動の領袖ローザの全体像を活写、現代史への視座=ポーランド・ドイツ革命運動の全貌をも復権紹介した名著

## 現代マルクス主義認識論

アルフレート・シュミット編  
花崎卓平訳  
哲学的認識の内容規定とその方法的な可能性を歴史的、哲学的、社会学的側面から試み、伝統的・教条主義的認識論の諸形式と概念を止揚する注目の論集

## 論争・歴史と階級意識

ゲオルグ・ルカーチ他  
池田浩士編訳  
『歴史と階級意識』の思想的成果をめぐる20年代の歴史的論争を再現、併せて当時の日本の論争をも収録。低迷する現代マルクス主義の理論的課題に応える

## 現代のアナーキズム

D・アプター/J・ジョル編  
大沢正道監訳 ¥1200●  
60年代後半の先進世界を震盪させた新左翼運動の思想と行動を世界的視野で歴史的・個別的に検証しつつ、現代アナーキズム思想の趨勢とその可能性を展望

## 労働者権力

セルジュ・マレ  
山内 親訳 ¥950●  
フランス労働運動の伝統と「5月革命」の生きた体験を基盤に、変貌する現代資本主義と労働者の主体的位置の再評価から現代革命の新たな可能性を切開する

## 反革命と叛乱

ヘルベルト・マルクラーゼ  
生松敬三訳  
高度資本主義社会の反革命的構造を暴露し、〈反文化〉を中核に据えたニュー・レフトの戦略と展望を提起する〈現代への叛乱〉の書。マルクラーゼの最新作